Sport Godzilla®

スポーツゴジラ®

第51号

特集
愛するバスケット

スポーツくじ toto BIG

スポーツ振興くじ助成事業

無料

Sport Godzilla®

スポーツゴジラ®

〔第 51 号〕

「ゴジラ」は東宝株式会社の登録商標です。
『スポーツゴジラ』は、日本スポーツ学会が
商標使用の許諾を受け、スポーツネット
ワークジャパンが発行しています。

2 第51 号を発刊するにあたり　長田 渚左

■特集■

愛するバスケット

4 一度見たら、必ずまた行きたくなるのがバスケ―― 田臥勇太　取材・構成 長田 渚左

8 サイズは変えられないけれど それ以外は考え方次第で変えられる―― 富樫勇樹　取材・構成 長田 渚左

12 レベルが高ければ高いほど 苦しいけれど楽しい―― 河村勇輝　取材・構成 長田 渚左

16 Bリーグクラブチーム地図　構成 西本 祥子

17 バスケットボールで日本を元気にする ―― 三代目チェアマン 島田慎二　取材・構成 波多野 圭吾

23 NBA―― ケタはずれの社会貢献　小川 勝

29 世界で人気No.1のスポーツ ―― スピードアップが止まらない　玉木 正之

34 大坂なおみも愛したコービー・ブライアント　大井 成義

41 差別への抗議と多様性の尊重　波多野 圭吾

47 夢劇場『馬』No.24「白馬のスリル」　長田 渚左

48 バックナンバーのご案内

【表紙イラスト】南 伸坊

スポーツネットワークジャパンHP　http://sportsnetworkjapan.com/

『スポーツゴジラ』は、種目を問わずスポーツそのものの魅力や価値を語るスポーツ総合誌（フリーペーパー）です。

第51号を発刊するにあたり

編集長　長田　渚左

コロナ禍は今も予断を許さない。変異株が次々に出現し、ワクチン接種も手探り状態が続いている。

その災厄にあっても、スポーツ界はそれぞれ知恵を絞ってきた。観客を減らし、消毒を呼び掛け、声援も禁止した。もちろんマスク着用は必須の条件だ。

そんな不自由な日常に、スポーツ選手の活躍は私たちに一段と大きな力を感じさせてくれる。

今回は、世界トップクラスの競技人口を誇るバスケットボールに焦点を当てた。

現在、八村塁、渡邊雄太選手が世界最高峰のＮＢＡで存在感を発揮していることも、バスケットボールというスポーツの土壌の広さを物語っている。

さまざまな人種が入り混じり、有名になって多額の年俸を稼ぐようになると、競い合うように社会貢献活動に情熱を注ぐ。そこだけ別の時間が流れているような魅力も感じる。競技だけでなくその独特な世界観も注視したかった。

Ｂリーグのシーズン真っただ中でもあり、チームの主軸のポイントガードに取材をすることが果たして可能なのか心配だったが、変幻なプレーでチームの顔とも言える３選手に無理を言って時間をつくっていただいた。

40歳の田臥勇太、28歳の富樫勇樹、そして今注目の20歳、河村勇輝。何よりも嬉しかったのは、ライバルとしてコートでしのぎを削る３人それぞれが、互いへのリスペクトを滲ませていたことだ。まさにスポーツマンシップ。うまく言えないが年齢に関係なく、一つの競技に打ち込む桁外れの情熱や苦悩が、敬意となって言葉の端々にのぞいた。

あのＮＢＡには日本の相撲界のような身長制限はないそうだ。つまり日本人だってまだまだ大暴れできる。期待したい。

ご協賛およびご協力企業・団体

株式会社トンボ

WOWOW

Hakuju
白寿生科学研究所

株式会社御福餅本家

人と社会を支える力
国士舘大学
Kokushikan

文藝春秋

Eat Well, Live Well.
AJINOMOTO

PHOTO KISHIMOTO

上月財団

ヤマト運輸

立ちどまらない保険。
MS&AD
三井住友海上

KOSÉ

日本体育大学

公益財団法人
住友生命健康財団

JAPAN SPORT
COUNCIL

都市に豊かさと潤いを
三井不動産

株式会社東美物流

日本ハンドボールリーグ機構

TOKO 東江テクニカ

笹川スポーツ財団
SASAKAWA SPORTS FOUNDATION

（順不同）

愛するバスケット

一度見たら、必ずまた行きたくなるのがバスケ——田臥勇太

第8回日本スポーツ学会大賞授賞式

©TOCHIGI BREX INC.

田臥勇太（たぶせ・ゆうた）1980（昭55)年10月5日、神奈川県横浜市生まれ。バスケットの名門・秋田県立能代工業入学。即スタメンとなり3年連続で高校総体、国体、全国高校選抜の3大タイトルを制し、史上初の9冠を達成。高校卒業後、ブリガムヤング大学ハワイ校に進学しプレー。2002年に日本に帰国。トヨタ自動車アルバルクでプレーし、新人王獲得。03年にアメリカに渡り、NBAのサマーリーグに挑戦。04年、NBAフェニックス・サンズと契約、開幕メンバーに登録され、日本人初のNBAプレーヤーとなった。08年リンク栃木（宇都宮)ブレックスに入団。09－10シーズンには中心選手として活躍し、チームを日本一に導いた。16－17シーズン、キャプテンとしてBリーグ初代王者に導いた。第8回日本スポーツ学会大賞を獲得。PG

――田臥さんは4年前に第8回日本スポーツ学会大賞を受賞しています。その時の講演を掲載したスポーツゴジラ第37号は在庫ゼロです。あのスピーチの中で〝足のサイズは29㎝だったのでもっと身長が伸びるかと思っていた〟という話でした。実は腕も長いし、手も大きいのに背だけが低いと……。

田臥　こちらこそお世話になりました。バスケ界から初の選出だったと聞いて励みになりました。そうなんですよ。足の大きさに合わせて身長が１８０㎝くらいまで伸びていたら、今とは違うプレーヤーになっていたかもしれません（笑）。

――身長は１７３㎝。伸びが止まったのはいつでしたか。

田臥　高校時代には伸びなくなっていました。

――田臥さんに魅了された子どもたちは多いのですが、思春期などに自分にコンプレックスを抱いてしまう子どもも少なくないですよね……。

田臥　僕も小学生の頃は太っていて、ぽっちゃり体型でした。運動することは好きで、どうしたらバスケがもっと上手くなれるか？　と工夫するようになりました。人より一本でも多くシュートしたい。夜は一人で走りに行こう。人より一つでも得意なことがあると、それが自信につながり、他のことが全然気にならなくなる。何でも良いと思うんです。

――小柄だったので大きな相手と対して怖いと思うこともありましたか。

田臥　怖いと思うより、何とか抜いてやろう、何とか止めてやる、その思いの方が強かったですね。相手との間合いや足の置き方、角度などずーっと研究し続けています。

――初めてＮＢＡに挑戦した時にコーチに〝バスケはガタイの大きさの勝負じゃない。ハートの大きさの勝負なんだ〟と言われたそうですが。

田臥　周りは見たこともない大きな人や上手い人ばかりでしたから、励まされたし〝おまえなりに（何かを）見つけてやれ！〟と言われ、とても自信にな

りました。

ノールックパスの極意

――日本のコーチはそういう言い方をしなかったのですか。

田臥　アメリカはトライしないと失敗も分からないと考えるんです。失敗しても、ポンポンお尻をたたいて〝次はいけるぞ！〟と。手をたたいて〝次は必ず上手くいくから〟と子どもに言います。だからみんなポジティブになれる。

――日本は失敗すると〝何をやっているんだ！〟と叱られるから臆病になってしまい、失敗しないように消極的になりますが。

田臥　うーん。子どもの頃からアメリカを経験してみたかったと思います。異なる別の成長が僕にもあったかもしれないから。

――ちなみに小柄な選手にはハートだけじゃだめ、大いに技術が必要だと言う人もいるようですが、どう思われますか。

田臥　どっちも必要なんです。必要なものに限界はない。上には上がいる。メンタルも技術も。必要なものは果てしない。

――田臥さんのノールックパスは神技ですが、あのように背中に目があるようなプレーができるようになるのは練習量ですか。

田臥　もちろん反復練習も大事ですが、その瞬間、瞬間、周りの選手のポジションを冷静に確認してチャンスをつかむ、感じることが大切です。

――40歳を迎えてバスケの手応えはどうですか。

田臥　若い頃より動けない分、アンテナを張っていなければだめなんです。アイディアの引き出しも増やし続けないといけない。今もできないことがたくさんあるということは、逆にいうとまだまだやれることが増えるとも言えると思います。バスケはするのも好きですが、ＮＢＡなど他の人のプレーを見るのも大好きですから。渡邊雄太選手や八村塁選手を

見ても、あんなディフェンスがあるのか？　など気づきがいっぱいあります。魅了されますね。毎日、NBAを見て刺激を受けています。そこで見つけたこと、気づいたことを自分のプレーの中に何とか落とし込んでいこう……とばかり考えているんです。

――富樫さんについてはどう感じていますか。

田臥　彼は得点力を持っていますよね。あのサイズで、小さくても勇気にあふれていて、さすがだなと思います。得点するのが好きで、ちょっとでもスペースが空いていたら、俺に打たせていいのか!?という自信を感じます。ちょっとでも空いていたら打ってくる怖い選手です。ミスも恐れない。

――河村さんについてはいかがですか。

田臥　パスを出す感覚が自分と似ている気がしています。

――河村さんのお父さんが田臥さんの大ファンで、子どもの頃から寝るときに田臥さんの高校時代のDVDを見せていたそうです。

田臥　そんなふうに言ってもらえるだけでも、自分の存在を認めてもらったというか、やりがいになります。まだまだ頑張りたいというモチベーションになります。

――田臥さんがNBAでプレーした頃と比べて、世界の日本人に対する変化を感じますか。

田臥　それは凄く感じています。アジア人で小さいから相手にされなくて、〝何しに来たんだ〟という空気ばかりでしたね。アジア人のバスケットプレーヤーといえば中国人がメインでしたから。今は渡邊選手、八村選手など日本人として分かってもらえるでしょう。本当にうれしいです。

――バスケの魅力とは何ですか。

田臥　大きい人や小さい人がいて、それぞれの持ち味が展開するスピーディーなところ。世界に通用するスポーツ。シュートのバリエーションも多彩。一度見に行くと、必ずもう一度行きたいと思うはずです。

BELOVED BASKET

愛するバスケット

サイズは変えられないけれど それ以外は考え方次第で変えられる

——富樫勇樹

©CHIBA JETS FUNABASHI/PHOTO:Atsushi Sasaki

©CHIBAJETS FUNABASHI

富樫勇樹（とがし・ゆうき）

1993（平5）年7月30日、新潟県新発田市生まれ。中学校卒業後、アメリカのモントローズ・クリスチャン高校に留学。卒業後はbjリーグの秋田ノーザンハピネッツに入団。2014年7月には、NBAサマーリーグにダラス・マーベリックスの一員として参戦。同年10月に日本人2人目となるNBA選手契約を結んだ。15年9月、千葉ジェッツふなばしと契約。Bリーグでは「MVP」1回、「ベスト5」4回、「アシスト王」1回。Bリーグで、初の1億円プレーヤーとなる。PG

——試合でプレーをしている時はとても存在感があり、富樫さんが複数いるように見えます（笑）。本当に身長は167cmですか。

富樫　はい。167cmです。

——身長の伸びが止まったのはいつ頃でしたか。

富樫　高1ですね。あまり気にかけてはいませんでしたが、止まりました。

——バスケを続ける中でコンプレックスにはなりませんでしたか。

富樫　バスケをやる上で大きいにこしたことはないですけど、小さくて良かったと思ったこともないですし、コンプレックスだと感じたことも一度もないです。

——高校時代には米国への留学経験もありますが、周囲はそびえる壁のような長身選手ばかりで、自分のプレーをするのは難しくなかったですか。

富樫　うーん。それは自分としては想定内のことでしたから〝やっぱりそうか〟くらいで別に壁だとは感じなかったです。それよりも相手がアグレッシブに当たってくるので、それが痛みになるのには驚きました。バスケのスキルはそう違わなかったと思います。向こうの高校生は大人の体格の人が多くて痛いし、怖いし……と初めは思ったのですが、そのうちに気にならなくなりました。

——なぜ気にならなくなったのでしょうか。

富樫　慣れもありましたし、大きい選手がドライブしてくる時にチャージする練習をやらなくてはならなくて、思い切ってトライしたら恐怖心がなくなったのです。

——その時の経験は今も生きていますか。

富樫　そうですね。とはいえ今でも相手選手のヒジが当たりそうな感じは同じですが（笑）、今は怖いなんて言ってられないですから。

——すると持ち味の俊敏性をさらに磨いたわけですね。

富樫　足は学生の頃から遅いわけではないですが、

だからといって普通にまっすぐ走るだけなら速い人は他にいくらでもいます。大切なのは動きの強弱。一歩目、二歩目が大切。いきなり0から100までアップするような突破力も大事。ドライブも多いので、能力以上に動きは速く見えるようなのです。

可能性と持続

――視野の広さも際立っていますが。

富樫　うーん。実は視野の広さも自信がなくて、去年はアシスト王にもなってはいるのですが……。ある取材で篠山竜青選手（川崎ブレイブサンダース）とコート内の細部がどのくらい見えているかを比較する企画がありました。どうも自分は細部はよく見えていないことが分かったのです。

――へえ、では得点に結び付けるルートは、どのような嗅覚で探っているのですか。

富樫　ここだと思うところを一つ狙ってこじ開けるタイプらしいです。

――視力そのものはどうですか。

富樫　2・0は見えますけど（笑）、決して特別なものが見えているわけではないです。

――富樫さんに憧れる子どもたちも多いですが、子どもは思春期などの難しい時期もあって〝あれは無理〟〝できない〟などと自分に言い訳して、自らの可能性を閉ざしてしまうことも少なくないようです。そういう子どもたちに言ってあげたいことは？

富樫　人って沢山の才能を持っていると思うのです。パスセンスもシュートセンスも身長が高いのも才能だと思います。サイズだけは変えられないけど、それ以外の才能は考え方次第で変えられる。それもその人一代で変えられる。気持ちを切らさずにやり続ければ変えられる。そう言ってあげたいですね。

――自在のシュート力には定評があります。〝プレーの最初の選択肢としてシュートがある〟とも言ってました。大きい言葉ですね。

富樫　プレーの最初の選択肢としてのシュートは

自分の持ち味ですから……。シュートにも打っていいシュートとそうでないシュートがあります。（今まで）決めてきたからこそ、許されるシュートもある。（一般的には）思ってもいないところからシュートして外すと交代させられますが、外しても試合に出続けられるように信頼を得ていないといけないです。シーズンを通じて結果を出し続けることです。

――田臥さんが、富樫さんはどこからシュートを打ってくるか分からない怖い選手だと評していました。

富樫　……うれしいです。逆に自分がディフェンスをしていて、その人のシュートの成功率はともかく、打ってくる選手は怖いですから高い集中力で対応しなければならない。だから自分もそのような怖い選手でありたいと思っています。自分みたいに日本のポイントガードで勝手やって、シュートを打ってくる選手はいません。それをさせてもらえていること自体、とてもありがたいですし、さらに持ち味を生かしたいと思っています。田臥さんは自分とはタイプが違って、パスのバスケでキャリアを築いて日本を牽引（けんいん）してきました。ＮＢＡに挑戦してユニホームを着てコートに立ったこと自体すごい。それを一番分かっているのは自分だと思っています。一日でも長くコートに立っていてほしい。ライバルチームですが、対戦はいつも楽しみです。

――河村選手にはどんな印象を持たれていますか。

富樫　彼が高校生の頃から見ていて、下の世代で同じポジションで、あそこまで注目度の高い選手はいなかった。漢字は違うけど同じ名前ですし、大学生であってもプロとしてプレーしているのはうれしいし、とても楽しみな選手です。

――バスケの魅力は。

富樫　日本は昔から野球が人気で、一球一球に間があってゆったりしていますが、初めてバスケを見た人がスピード感に驚いて、人と話してなんていられない……と言われると嬉しいです。

愛するバスケット

レベルが高ければ高いほど苦しいけれど楽しい――河村勇輝

河村勇輝（かわむら・ゆうき）

2001（平13）年、5月2日、山口県柳井市生まれ。学校法人都築学園　福岡第一高校を高校バスケット日本一を決めるウインターカップで連覇に導き、Bリーグの特別指定選手として三遠ネオフェニックスに加入。B1史上最年少出場と史上最年少得点記録を更新。2020年東海大学入学、大学選手権優勝に貢献。二度目の特別指定選手として横浜ビー・コルセアーズで活躍。PG

――河村選手の身長に触れた記事には170㎝と172㎝の両方ありますが。

河村　うーん。正確には171㎝です。高1か高2くらいで止まりました。

――自身のサイズに不満を感じたことは？

河村　それはない。両親ともさほど大きいわけではなかったですから……。でも小さい頃からバスケが大好きでしたけど、中学、高校と高いレベルになるにつれて、身長がものを言うスポーツであるという実感は強くなっていきました。身長がない分、スピードとクイックネス（俊敏性）を磨いて、スキルを上げないといけないと思っていました。

――今、河村選手は子どもたちの憧れの存在でもあります。思春期の子どもたちは引っ込み思案だったり、臆病だったり、悩みを持つ子どもも少なくない。何か言ってあげたいことはありますか。

河村　引っ込み思案であることも、消極的になってしまうことも、さほど悪いことではないと思っています。ただし、多くの指導者や環境に触れる中で、より積極的な方が大人になるにつれて自分のためになる……と言ってあげたいですね。思春期は難しい時期ではありますけど、積極的であることは大切です……と。

――河村さんは高校に通いながらBリーグでプレーできる『特別指定制度』でB1最年少出場を果たしました。積極的な人生です。そこで何を？

河村　まず感じたのはプロのレベルの高さより、プロの存在意義として、何ができるのか？　でした。高校生としてプレーするときは自分のため、チームのためにしか考えませんでしたけど、プロはお客さんがお金を払って見に来ているので、そこで何を見せるか、何を還元できるのか、技術だけではなくプロとしてすべきことはどんなことがあるのか、を考えました。フィジカル面は最初の頃は大きい選手とのコンタクトで体のバランスを保てないことも多く、苦戦しました。でもその後は、タイミングのずらし

方や、いかにかわすか……など高いレベルに合わせて練習できるので楽しめました。自分はレベルが高ければ高いほど、苦しいけれど楽しいと思えて、気負わずに挑戦できました。高3で国内最高峰のBリーグを経験できたことで、自分の人生に覚悟のようなものができたと思っています。

憧れの舞台へ

――同じポジションの先輩、田臥勇太選手と富樫勇樹選手についてはどう感じていますか。

河村　どちらも尊敬しています。田臥さんに関しては父が大ファンだったので、小学生の頃から能代工業時代の田臥さんのDVDを見ながら寝てしまうような夜を毎晩過ごしてきました。田臥さんのプレーを見て、ポイントガードの役割、楽しくバスケをプレーする姿、パスのバリエーション、プレーの想像力が、自分の中で培われたと思います。間違いなく田臥選手を追って今の僕のバスケ人生はあります。

――田臥さん自身も河村さんのプレーが自分に似ていると話していました。

河村　はい、いずれ同じコートでマッチアップ（一対一での対峙（たいじ））するのを楽しみにしています。

――富樫さんとは、2021年1月に横浜と千葉の対戦でマッチアップが実現しています。印象はいかがでしたか。

河村　あのときは自分もチームの一員として戦っているので、個人の感情などを抜きにして集中してはいましたが、富樫さんの相手の流れを断ち、自分の流れに運ぶスタイル。ドライブしながらの的確なパス。ゲームをコントロールする力が素晴らしいと思いました。ウイークポイントのない選手だとも思いました。加えてシュート力。自分よりも小さいサイズでポイントガードとして日本のトップクラスでプレーし続けている凄さ、あのくらい何年も目立っていれば、対策されるわけですが、それを毎回上回っているのは凄いなあと、驚きました。

――バスケの魅力をご自身の言葉で伝えてください。

河村　サッカーや野球と比べて展開が速いので、いつ見ても楽しいはずです。バスケは身長がものを言うスポーツではありますが、小さい選手が大きい選手を翻弄(ほんろう)して点を取ってしまう面白さがあります。自分もそういう役割を担っていて、小さい人たちの夢でもありたいと思っています。

――チーム5人の中で一人小柄な選手がいると、ボールの行方にも変化があって面白さが増します。どんな気持ちでプレーしているのですか。

河村　バスケは5人の役割が決まっていて、忠実に自分の仕事をこなしながら積み上げていく。オフェンス（攻撃）は〝足し算〟、ディフェンス（防御）は〝かけ算〟だと思って下さい。オフェンスは一人が100点を取って勝ってしまうこともありますが、ディフェンスは一人が10点、一人が10点と頑張っても、別の一人が頑張っていないと、そこでやられてしまい、全部終わってしまうこともあります。

5人が勝利へ向かって同じ方向を見て全員で頑張る。自分のためだけでなく、チームのために大きな気持ちと覚悟を試されるゲームです。

――現時点で自身のテーマは何ですか。

河村　小さい課題はたくさんありますが、一番はゲームコントロール力のアップです。

――5月2日に20歳になりました。田臥さんとの身長差は2㎝ほどですが、体重は12kg以上も軽いですよね。どう考えていますか。

河村　プレースタイルに合った適正体重を模索しているところです。大学でトレーニングしながら見極めていくつもりです。

――河村さんにとってNBAの魅力は？

河村　NBAは世界最高峰のリーグです。バスケをする人間にとって一番の憧れの舞台。誰もが目指す場所です。段階を一つ一つ踏んで、自分もいずれはその舞台に立てる実力をつけたいです。

――期待しています。

Bリーグクラブチーム地図
（2021年4月現在47クラブ）

北海道	レバンガ北海道		東京エクセレンス	滋賀県	滋賀レイクスターズ
青森県	青森ワッツ		東京八王子ビートレインズ	京都府	京都ハンナリーズ
岩手県	岩手ビッグブルズ	神奈川県	川崎ブレイブサンダース	大阪府	大阪エヴェッサ
宮城県	仙台89ERS		横浜ビー・コルセアーズ	奈良県	バンビシャス奈良
秋田県	秋田ノーザンハピネッツ	新潟県	新潟アルビレックスBB	兵庫県	西宮ストークス
山形県	山形ワイヴァンズ	富山県	富山グラウジーズ	岡山県	トライフープ岡山
福島県	福島ファイヤーボンズ	石川県	金沢武士団	広島県	広島ドラゴンフライズ
茨城県	茨城ロボッツ	長野県	信州ブレイブウォリアーズ	島根県	島根スサノオマジック
栃木県	宇都宮ブレックス	岐阜県	岐阜スゥープス	香川県	香川ファイブアローズ
群馬県	群馬クレインサンダーズ	静岡県	ベルテックス静岡	愛媛県	愛媛オレンジバイキングス
埼玉県	越谷アルファーズ		アイシン・エィ・ダブリュ アレイオンズ安城	福岡県	ライジングゼファー福岡
	さいたまブロンコス	愛知県	豊田合成スコーピオンズ	佐賀県	佐賀バルーナーズ
千葉県	千葉ジェッツ		ファイティングイーグルス名古屋	熊本県	熊本ヴァルターズ
東京都	アルバルク東京		シーホース三河	鹿児島県	鹿児島レブナイズ
	サンロッカーズ渋谷		名古屋ダイヤモンドドルフィンズ	沖縄県	琉球ゴールデンキングス
	アースフレンズ東京Z		三遠ネオフェニックス		

愛するバスケット

バスケットボールで日本を元気にする

――三代目チェアマン　島田慎二

取材・構成　波多野　圭吾
写真　山内　亮治

島田慎二（しまだ・しんじ）1970（昭45）年11月5日、新潟県村上市生まれ。92年、日本大学法学部卒業後、マップインターナショナル（現・エイチ・アイ・エス）入社。95年、ウエストシップ設立。2001年、ハルインターナショナル設立。10年、リカオン設立。12年、ASPE（千葉ジェッツ運営会社）代表取締役就任。15年、ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ理事就任。2015－16シーズンにおいて、1試合の入場者がリーグ最多の6835人を記録、年間入場者数も初めて10万人を突破する。Bリーグ初年度の16－17シーズンでは、天皇杯で日本一を達成。１試合の最高入場者数7327人、年間入場者数が13万5097人と日本一を更新し、人気・実力ともにトップチームに押し上げる。17年5月、Bリーグバイスチェアマン就任。2020年6月、株式会社千葉ジェッツふなばし会長を退任し、Bリーグチェアマンに就任。

——昨シーズンは、新型コロナウイルスの影響でリーグ戦の3分の1とポストシーズンがなくなりました。今シーズンはリーグを中断することなく、有観客での試合も開催していますね。

島田　昨年はコロナがどんなものかわかりませんでしたけど、今シーズンはリーグの開幕まで半年ほど余裕があったので、ある程度ウイルスの性質や対策を理解したうえで進められています。実際、ここまで会場が発生源になったことはなく、観客間でのクラスター発生もありません。チームで感染者が出た場合は迅速な対応で、徹底して抑え込んできました。試合のある週はドキドキしながら過ごしていますけど、クラブや選手の尽力もあって、ここまでシーズンを中断することなく開催できています。

——シーズン打ち切りに伴い、各クラブの営業収入が落ちたと報じられました。実状はどうですか。

島田　試合が3分の1なくなれば、チケット収入も3分の1なくなります。それに加えて会場でのグッズ販売や飲食に伴う収入も減りますから、シーズンの打ち切りは大きな損失につながっています。あくまで見込みですけど、営業収入はB1とB2をあわせて約30億円の減少になりそうです。

リアルとバーチャル

——Bリーグにはソフトバンクや富士通といったデジタル技術に長けたパートナーがいらっしゃいます。コロナ禍だからこそ見えてきた新たなビジネス戦略や発見はありましたか。

島田　一番大きかったのは、試合動画の視聴ですね。Bリーグは2016年の開幕からソフトバンクさんの「バスケットLIVE」というサービスで試合映像を配信していただいています。コロナの拡大以降、入場制限の関係で会場へお客さんを収容率100%で入れることができなくなり、必然的にデジタル技術を駆使して視聴体験の質を高める方向に舵を切ることになりました。様々な視点から試合を

見られるマルチアングル機能の付加がその一例です。こうした構想自体はコロナ以前からありましたが、スポーツの分野では入場者数が経営上の重要指標とされているので、現地観戦者の数を増やすことが最優先されてきたんです。

でも、今年は入場者数が大幅に減ったにも関わらず、動画視聴者と入場者数の合計は昨年の数字を上回っています。動画視聴者が増えたことで、Bリーグを見た人の総数が増えたんです。災い転じて福となすといいますか、それは嬉しい発見でした。

——今後もデジタル技術を活かしたリーグ運営がなされていくのでしょうか。

島田　この1年でデジタルでの視聴体験を磨き上げることができましたから、今後は現地観戦、つまりリアルとバーチャルの両輪でリーグを成長させていきたいと思っています。技術の発展に伴ってリアルとバーチャルの間の障壁はなくなっていくと思いますし、スポーツ界全体として試合映像を視聴することの価値をしっかり高めていく必要があります。

相乗効果と夢

——Bリーグは地域への経済効果や地域創生にも目を向けていて、地域密着という点ではプロ野球、Jリーグにも負けない存在感があると思います。

島田　リーグとしては、単にアリーナを作って宿泊や飲食などの経済効果を生み出していくだけでなく、アリーナを拠点とした防災・減災の取り組みを進めていくなど、様々な観点から地域社会に貢献していきたいと思っています。

他のスポーツ団体も同じような志を持っているところがありますし、岡山や川崎など複数競技のトップチームがある地域は互いの存在が刺激になって相乗効果を生んでいます。

——コートの中に目を移すと、田臥勇太選手（宇都宮）や富樫勇樹選手（千葉）、横浜で特別指定選手としてプレーした河村勇輝選手（東海大学）など、

身長が低くても魅力あふれる選手が躍動してます。

島田　ドリブルやシュートなどのスキルをきちんと身につければ、身長の高い選手とも対等に勝負ができることを教えてくれていますよね。バスケットボールをしているのは背の高い子ばかりではありませんから、そうした子どもたちに夢を提供する彼らの存在意義はすごく大きいと思います。

――一昔前までは「身長が低いからダメ」という決めつけるような考え方があった気がしますが、そのあたりは変わってきていますか。

島田　そうですね。その変化を促しているのが身長の低い選手の自信に満ちたプレーであり、言動だと思います。富樫選手はサイズが小さいことをハンディキャップとして感じたことはないと明言していますし、プレーからもそうした考えが伝わります。

刺激と実績

――Bリーグで活躍する選手がいる一方、八村塁選手（ワシントン・ウィザーズ）のようにBリーグを経由せずにNBAを目指す選手が増えてきています。そのあたりはどのようにお考えですか。

島田　それはそれで素晴らしいことだし、良いことだと思います。Bリーグのチェアマンだからといって、日本人選手にBリーグでのプレーを優先して欲しいとは思いませんし、海外への挑戦を否定する気はありません。八村選手や渡邊雄太選手（トロント・ラプターズ）の存在があるから日本のバスケット界が盛り上がり、それと連動してBリーグも盛り上がっています。

ただ、みんながみんなその道を歩めるわけではありません。海外でプレーする選手たちに刺激を受けつつ、まずはBリーグで鍛え上げる。国内で実績を積んだうえでアメリカやヨーロッパに挑戦する道もありだと思うのです。そういう選手が出てくるようになれば、Bリーグや日本バスケット界はもっと盛り上がっていくでしょうね。

理念と挑戦

――バスケットの魅力とは？

島田　バスケットボールには、「競技としての魅力」と「空間的な魅力」の２つがあると思います。

競技的には、点数がたくさん入りますし、試合展開が早いです。観客が盛り上がるシーンや熱狂する場面がたくさんあるので、見ていて面白いですよね。そういう面白さは、バスケットボールに関わり始めてすぐに感じました。何でこんなに面白いのに日本では人気がないんだろう、と。アップテンポな展開はもちろん、２ｍクラスの大きな選手が狭いコートの中で体をぶつけ合う姿は迫力満点です。

また、会場となるアリーナは室内なので照明や音楽などの演出がふんだんにできます。アリーナがファンの一体感や試合の熱狂を増幅する役目を果たすんです。ライブコンサートとスポーツが一緒になったような魅力ある舞台があるのは、バスケットボールが持つ強みだと思います。「試合を見せればそれでよし」ではなくて、バスケットの競技的魅力に甘えることなく、プラスアルファとしてアリーナの魅力を活かしたエンターテイメントを追求していくことが重要です。

――島田さんは千葉ジェッツの社長も務めてこられました。就任当時、クラブは経営が厳しい状態でしたが、地域密着などの戦略を推し進め見事立て直しを果たし、今では日本トップレベルのクラブへと成長しています。

組織のパフォーマンスを劇的に変えるには理念が大事だと発言されていますが、リーグ運営においてもそれは同じですか。

島田　日本のバスケットボール界の志を表す言葉として、「バスケットボールで日本を元気に」があります。老若男女問わず、バスケットで世の中を幸せにしたいということです。

クラブからリーグに移って所帯は大きくなりまし

たが、日本をバスケットで幸せにするという理念自体は変わりありませんし、日本全国のクラブと一緒になって地域を盛り上げていくことを追求していきたいと思います。

――数カ月後に迫るオリンピック・パラリンピックは、理念がないとよく批判されています。なぜ、理念が必要なのでしょうか。

島田　オリンピックに理念がないとは思いませんが、理念がないとどこに向かえば良いかがわからないからですね。最上位概念である理念や志を明確にしたうえで、商品開発や接客サービスなど、その団体の方向性を決めていかなくてはならない。後手後手で決めていったのでは、行き当たりばったりで何をやってもダメですよね。良き理念というのは、道標であり、羅針盤みたいなものだと思います。

――三代目のチェアマンとして、リーグの発展や今後の構想についてはどんなことをお考えですか。

島田　Bリーグはまだまだ若いリーグですし、社会に対して野球やサッカーとは違ったアプローチをしている団体だと思っています。若い団体だからこそ恐れることなくチャレンジができますし、成長する可能性が十分にあります。

私自身もチャレンジャー精神を持ってクラブ経営の経験を積んできて、その経験はBリーグのアグレッシブで色んなものに挑戦していくというカルチャーと一致すると思っています。

我々には、「バスケットボールで日本を元気に」という大きな道標があります。その実現のためには、全国に点在するクラブが良い経営をして、地域での存在意義を高めていくことが重要です。

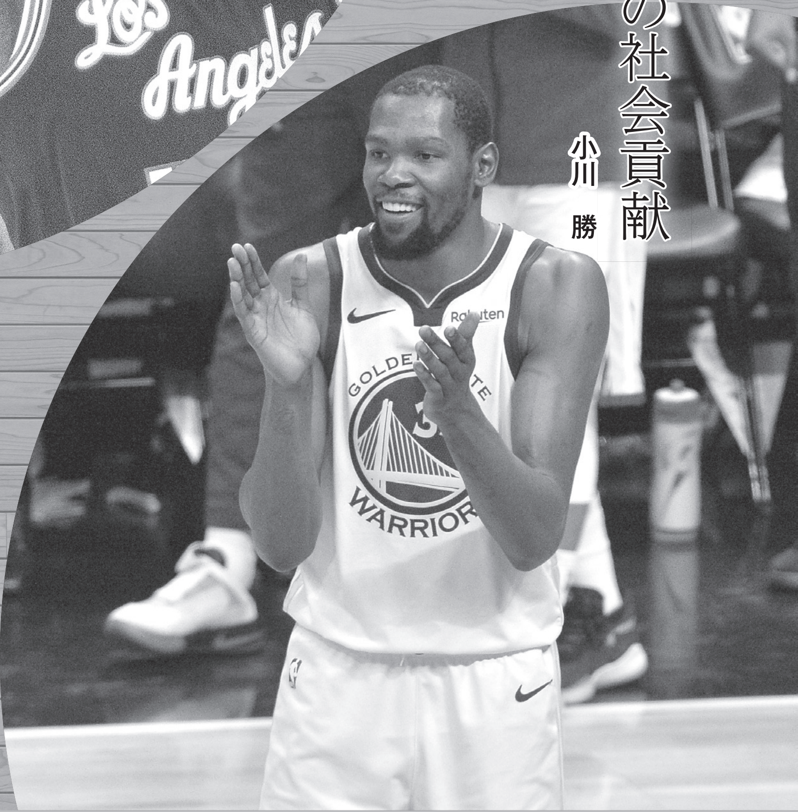
リーグはそうしたクラブの取り組みを支援していきますし、時には一体となって活動していきます。国際舞台で勝つことも大事ですけど、今後もBリーグの勢いを絶やさないようにしていきたいですね。

愛するバスケット

NBA——ケタはずれの社会貢献

小川　勝

レブロン・ジェームズ



ケビン・デュラント

小川 勝（おがわ・まさる）
1959（昭34）年1月12日、東京都出身、青山学院大学理工学部卒業後、スポーツニッポン新聞社でプロ野球、北米スポーツ、長野五輪などを担当、2002年から独立してスポーツライターに。著書に『オリンピックと商業主義』、『東京五輪　問題の「核心」は何か』（以上、集英社新書）など。

米国において、社会貢献の活動に熱心なアスリートは少なくないが、最近、ＮＢＡのプレーヤーたちの活動の中に、注目したいものがあるのだ。すでに始まっている活動の中から、米国においても報道されたものを詳しく書いてみたいと思う。

経験とテーマ

プレーヤーとして歴史に残る活躍を見せながら、社会に対する活動で、同じくらい注目されているのがレイカーズのレブロン・ジェームズだ。18歳のときのドラフトで、1巡目1番指名で地元のキャバリアーズと契約、1年目の新人王から始まって、ＭＶＰ、オールスターＭＶＰなど、すべての栄誉を獲得してきたと言える、文字通りのスタープレーヤーだ。

ジェームズは地方都市、オハイオ州のアクロンの出身だ。母親だけの家庭で育ったジェームズは、豊かではなく、小学校４年生のときには、年間で83日にわたって学校に行くことができなかったという。

ＮＢＡで活躍して、プレーヤーとしては、オハイオ州のチーム、キャバリアーズに初めてのＮＢＡファイナルでの優勝をもたらしたが、社会での活動としては、故郷のアクロンのために動いた。

ジェームズは２００３年にプロになって間もなく、「レブロン・ジェームズ・ファミリー財団」を設立したが、重点を置いたのはアクロンのための活動であり、自分自身の少年時代の経験に基づいて、教育に対する援助を最大のテーマとして取り組んだ。高校を出てプロになった時点で、ジェームズは、ナイキと7年間で総額９０００万ドル、1ドルを１１０円で計算すれば約99億円という契約を交わした。最近では20年に出た米国の経済誌「フォーブス」によるアスリートの長者番付によれば、世界５位で、年収で約97億２０００万円だ。ジェームズが取り組んできた教育に対する援助は、財団としての活動だから、自身の資産を投入しただけの資金で運営されているわけではないが、15年には、アクロン大

学に行く地元の学生たちに対する奨学金の計画を公表した。対象はジェームズのアクロンにおける活動ですでにかかわりのあった学生たち1100人ほどの中から、成績などの条件を満たした学生に対して、4年間の授業料と経費を出すというものだった。アクロン大学の年間の学費は、オハイオ州在住の学生の場合、約130万円ということだから、1000人単位の学生に学費を出すとすれば、10億円単位の拠出金を用意しなければならないわけだ。

親の実情とストリート

奨学金の計画を出したあと、ジェームズが最大の事業として取り組んだのが、アクロンでの学校の建設だった。自治体と共同で18年、ジェームズの財団は1年生から8年生までが通う公立の小学校「アイ・プロミス・スクール」を設立した。家庭環境などに恵まれていない子供たちが対象で、生徒から授業料は取らないだけでなく、制服は支給、朝食と昼食を提供するといった、子どもにとって経済事情に関係なく通える条件を整えた学校だ。子供が学校に通うための援助だけでなく、子供の両親が高校を卒業していない場合は、両親の高校卒業認定試験や就職に関して援助する活動まで含めて、学校として行っているという。

ジェームズ自身がアクロンで過ごした少年時代に、求めていた援助を与えられるようにと考えられた学校だと言える。レイカーズの公式ホームページにおいて、地元に学校を設立した理由について、自分は子供たちがどんな生活をしているのか分かっていること、子供たちが暮らしているストリートのことも分かっているからだ、と語っていた。

ジェームズの教育に対する活動は、個人の資金を投入するだけで、できる規模の事業ではないため、財団として資金を作る取り組みまで含めて、社会貢献のための活動だと言えそうだ。

姿勢と表彰

ＮＢＡは、リーグとして05年から「ＮＢＡケアーズ」という社会貢献の活動を行ってきた。重点を置いているのは、子供たちの肥満、環境保全などだ。バスケットボールの教室を開いて、子供たちに競技を教えることだけでなく、肥満にならないためのバランスのいい食事や生活習慣を伝えたり、環境保全に対しては、環境問題の共有、基金の創設などを援助していくといった活動を行ってきた。ＮＢＡでプレーしていれば、リーグとしての活動に協力するという機会は、たびたびあるわけだ。

ＮＢＡは「地域貢献賞」という賞を設立して、地域社会に貢献したプレーヤーを表彰してきたが、表彰されたプレーヤーの中で、社会貢献の活動で注目されてきたのが、ネッツのケビン・デュラントだ。14年のＭＶＰで、ウォリアーズに所属していた17年、18年にはＮＢＡファイナルで優勝してファイナルのＭＶＰという活躍を見せた。20年の「フォーブス」によると年間の収入は約70億２９００万円だ。デュラントもジェームズと同様に、教育に大きな援助を行ってきた。デュラントが地域貢献賞で表彰された18年、次のような活動で注目された。

「カレッジ・トラック」という、中学時代から大学を卒業するまで、長い年月、学生をサポートする活動に10年間で約11億円を援助すると公表した。デュラントが育ったメリーランド州プリンスジョージ郡において、金銭面の援助を求めている家庭の学生たちに重点を置いて、金銭面だけでなく、相談員が学生生活の相談に応じる施設を作った。デュラント自身が、母親だけの家庭で、大学に行くことを簡単には考えられない境遇で育っただけに、自分と同じ境遇の子供たちに、大学まで行ける環境を提供することに関して、意義を見出しているようだ。

同じ18年に、母校であるテキサス大学に対しては、競技場の改修などのために約３億３０００万円を寄

付するなど、自分がＮＢＡで活躍するようになるまでの間、過ごした場所に対して大きな援助を行った。デュラントはサンダーに所属していた時代、本拠地のあるオクラホマ州を13年に襲った竜巻による被害に、米国の赤十字社に約1億１０００万円など、災害に対する援助も折にふれて行ってきた。社会に貢献する活動家としての側面が、よく知られているスタープレーヤーだ。

食料とゲーム対決

デュラントとプレーしたウォリアーズのステフィン・カリーは、３点シュートの成功数ですでに歴代2位となっている長距離シューターだが、社会貢献の活動では、「サンクスＵＳＡ」という軍人の家族に奨学金を出す団体を援助してきた。10年から団体のスポークスマンを務めながら、自分ではチャリティーゴルフを開催して、寄付を行ってきた。

アイシャ夫人と設立した「イート・ラーン・プレー財団」では、ウォリアーズの本拠地であるカリフォルニア州オークランドで、栄養のある食事が取れないでいる子供たちに、食料を届ける課題に取り組んできた。新型コロナウイルス感染症の影響で、食事の面で問題を抱える家庭が増えた20年には、食料の提供に関して専門の団体と共同で、オークランドで15万食を配る活動を行った。カリー夫妻の財団は、スポンサーの企業とともに、専門の団体とも協力しながら、子供の生活に関する援助を行っていて、カリー自身が個人で活動するというより、スポンサーや団体と一緒に活動してきた。カリーの年収は、20年の「フォーブス」によると約81億８４００万円だったが、食料を援助する活動などは、専門の団体などと協力したほうが役に立つと、共同の活動をやっていると言えそうだ。

ＮＢＡのプレーヤーたちは、新型コロナウイルス感染症の拡大が始まった20年の３月以降、チームとしては活動できないが、自宅にいてもできること

をやろうと、テレビ中継でつないだ「ホース・チャレンジ」というスキル対決と、ビデオゲームによる対決の大会を行った。どちらも8人のプレーヤーが出場したが、いずれも感染症の対策のための、寄付が行われた。自宅近くのコートなどから中継されたスキル対決には、女子のプロであるWNBAのプレーヤーも出場したが、優勝したのはジャズのマイク・コンリーだった。大会のスポンサーから約2200万円が、新型コロナウイルス感染症の対策の活動に寄付された。ビデオゲームによる大会は、NBAの公式ビデオゲームによる対決で、優勝したのはサンズのデビン・ブッカーだった。優勝賞金の約1100万円は、ブッカーの意向で、チームの本拠地のあるアリゾナ州で食料の援助のために活動している団体に寄付された。

NBAは、20年10月に出たリーグとしての年間の総収入が約9130億円だった。豊かなリーグとして、社会に貢献していく姿勢は、はっきりと打ち出され、新型コロナウイルス感染症の中で、役割を果たそうとしていることは事実だ。リーグの姿勢があって、プレーヤーたちが活動することで、社会に向けて、NBAの姿勢が伝わるということなのだ。

BELOVED BASKET 愛するバスケット

世界で人気No.1のスポーツ
――スピードアップが止まらない

玉木正之

玉木 正之（たまき・まさゆき）
スポーツ文化評論家。1952（昭27）年、京都府出身。東京大学教養学部在学中より東京新聞紙上で執筆活動を開始。日本で最初のスポーツライターを名乗る。著書に『スポーツとは何か』（講談社現代新書）など多数。訳書にR・ホワイティング『ふたつのオリンピック』（KADOKAWA）、『和をもって日本となす』（角川文庫）。最新刊に『今こそ「スポーツとは何か？」を考えてみよう』（春陽堂書店）など。

バスケットボールの魅力――それはスピードアップされた現代社会の姿

アメリカ生まれと言える球戯は、ベースボール、アメリカンフットボール、バスケットボール、バレーボールの4種類。

そのなかで世界中の国々で大きな人気を得て、世界中の人々が楽しんでいると言えるスポーツは、バスケットボールだけである。

ベースボール（世界の競技人口は約3千5百万人）やアメリカンフットボール（同9百万人）はヨーロッパで人気がなく、アフリカやイスラム諸国ではほとんど普及していない。

バレーボール（同5億人）はオリンピック競技でもあり、世界一の競技人口を誇っている。が、世界的に人気のあるプロリーグが存在しない。

一方バスケットボール（同4億5千万人）は、世界中の多くの人々の人気を集め、世界中のバスケットボール選手の憧れの的となっているアメリカのプロ・バスケットボール・リーグ（ＮＢＡ）が存在し、アメリカ生まれの球戯として最も大きな世界的人気を獲得したスポーツと言えるだろう。

ではなぜバスケットボールだけが、それほどの人気を獲得することができたのだろうか？

＊

バスケットボールは１８９１年、マサチューセッツ州にあるＹＭＣＡトレーニングスクール（体育学校）のインストラクター（体育教師）ジェイムズ・ネイスミス（当時30歳）の手によって考案され、創作された。

マサチューセッツの雪深い冬の季節、ＹＭＣＡでは体育館で行う体操競技（スウェーデン体操、デンマーク体操、ドイツ体操などと称された身体運動）を指導していた。が、生徒に人気がなく、体操に代わって楽しく行えるスポーツが求められた。

当時の若者たちに人気があったスポーツは、東部

のアイヴィ・リーグと呼ばれる大学（ハーバード、コロンビア、イェールなどの大学）を中心に行われ始めていたアメリカン・フットボールだった。カナダのオンタリオ州出身で学生時代にフットボールの経験があったネイスミスは、これを何とか体育館の室内で行えるゲームにしたいと考え始めた。

そこで彼が考え出したのは次のような特徴を持つ「室内フットボール」となった。

ボールは蹴らずに手だけで扱い、ゴールは壁やバルコニーに取り付けたバスケット（マサチューセッツ特産の桃を収穫するときに使う籠）にして、２つに分かれたどちらのチームが、相手側の籠にボールを沢山入れるかを競う……。

ところが、そこで問題になったのが、タックルとオフサイドだった。

アメリカン・フットボールは、ヨーロッパで人気のあったラグビー・フットボールをもとに、アメリカ東部の学生たちが独自に作り直した球戯だった。が、ラグビーもアメフトもボールを持ってゴールに向かって突き進もうとする選手を、相手の選手が身を挺して（タックルで）止めることが「男らしい勇気ある行為」として讃えられていた。が、体育館という狭い室内で、タックルでボールを奪おうと身体をぶつけ合う行為は大きな危険を伴う。しかし、選手に「男らしい行為」を禁じるのも難しかった。

そこでネイスミスは、そもそもタックルが生じるのはボールを持った選手が走るからだと気づき、ボールを持った選手を（３歩以上は）走れなくして、パスしなければならないというルールにすれば、タックルもなくなる（タックルを反則としても受け入れられる）に違いないと考えた。

が、そこで問題になったのが、オフサイドだった。

フットボールのルーツを遡れば、中世ヨーロッパで復活祭や聖人の記念日などに行われた、マス（群衆）フットボール、マッド（狂気）フットボール、ストリート（街中）フットボールなどと呼ばれた球

戯にたどり着く。それは、千人近い人々が2組に分かれて1個のボール（豚や牛の膀胱を膨らませたもの）を奪い合う祝祭的な催しだった（また、産業革命が開始された頃のイギリスでは、土地を工場用地に奪われた農民たちの抵抗運動としても行われた）。それらは、ボールをそれぞれのゴール（村はずれの教会や反対側にある大木など）まで運ぶことを競い合ったが、そのとき味方のグループ（サイド）を離れて（オフ）、ボールを隠し持ってゴールへ運ぶような卑怯な行為を禁じるところから生まれたのがオフサイドというルールだった。

ボールがゴールに到達すれば祝祭や抵抗の時空間は終わってしまうため、早々とゴールを意地汚く狙う人間は軽蔑され、味方の側ではなくゴールに近い敵の側（オフサイド）でプレイする人物は「スニークsneak（コソ泥）」と呼ばれた（コソ泥が履いていた音のしない軽いゴム靴が、スニーカーsneakerなんですね。閑話休題）。

だからネイスミスもバスケットボールのルールを創り始めたとき、狭い体育館のなかで前方（オフサイドの位置）にいる選手にパスを出すことは当然禁止すべきだと考えていた。

ヨーロッパのサッカーやラグビーにはもちろんオフサイド（スニーク）を反則とするルールがあり、アメリカンフットボールも、オフェンスラインのセンターがボールをスナップして後ろにいるクォーターバックに渡すまで、他の選手がボールよりも前方（オフサイド）に出ることはできず、味方のサイドから攻撃し始めなければならないルールとしていた。

が、ネイスミスは、あるときひとつの大きな決断を下した。

ボールを持った選手が前方へ向かって（3歩以上）走れないことと引き替えに、「コソ泥」とまで呼ばれていた行為を認め、オフサイドは反則というルールを採用しないことにしたのだ。オフサイド・ルー

ルを採用しなくても別に何ら問題はない（コソ泥のような行為を許すことにはならない）と気づいたとき、ネイスミスは、指をパチンと鳴らして"I've got it!"（これだ！）と叫んだという。

こうしてオフサイドを認めたバスケットボールのルールは、前方（オフサイド）の選手へのロングパスや素速いパスを生み出し、プレイをスピードアップさせ、それがバスケットボールという球戯の醍醐味となり、さらに両チームの得点を（サッカーやラグビーのようなロウスコアでなく）一気に増加させ、観客の興奮を呼び起こすようになったのだった。

＊

スキーやスケートといったウインタースポーツ以外のスポーツに向かない雪深い冬の環境で、広い敷地が絶対に必要と思われるフットボールを限られた空間の体育館のなかで行うことに成功し、フットボール以上の世界的人気を獲得するようになったバスケットボール（サッカーの競技人口は約2億5千万人。ラグビーは8千5百万人。バスケットボールは前述のように4億5千万人）。

多くの人が楽しめる「新しい球戯」を生み出したジェイムズ・ネイスミスの「逆転の発想」は、その後のバスケットボールの世界にも引き継がれ、背の低い人の参加を広げる3ポイント・シュートや、さらにゲームのスピードアップを推進する24秒ルール（24秒以内にシュートを打たなければならない）といった新しいルールが次々と付け加えられた。

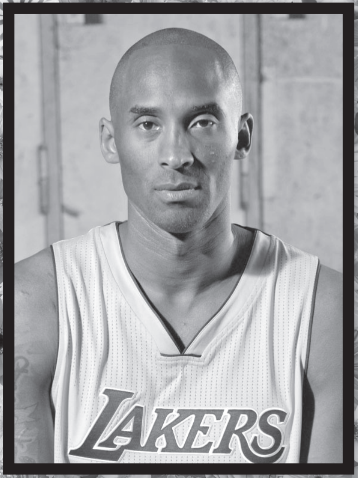
このようなルールの変更と改革は、いったいどこまで進むのだろうか……。それはひょっとして、スピードアップが止まらない21世紀に生きる我々のライフスタイルをそのまま映し出しているものなのかもしれない。

〈参考文献〉●J・ネイスミス『バスケットボール その起源と発展』水谷豊・訳／YMCA出版1980年●清水論・編『中村敏雄著作集5スポーツのルール学』創文企画2008年●吉田文久・編『中村敏雄著作集8フットボールの文化論』創文企画2009年

愛するバスケット

大坂なおみも愛したコービー・ブライアント

大井　成義



2020年1月26日、レイカーズのレジェンド、コービー・ビーン・ブライアントがヘリコプター事故で亡くなった。享年41。
コービーはレイカーズで20年のキャリアを過ごした。優勝5回、MVP1回、オールスター選出18回。NBA史上屈指の名選手として知られる。
コービーが自ら名付け、愛したニックネーム『ブラックマンバ』は、世界で最も危険な毒蛇。狙った獲物は99.9%の確率で仕留める。そのメンタリティーはコービーのプレーに重ねられ、他チームから恐れられた……。

大井 成義（おおい・しげよし）
1966（昭41）年生まれ。山形県酒田市出身。フォトグラファー兼ライター。1993年渡米、School of Visual Arts New York卒業。ポートレイトを中心にトラベルやスポーツ関連の写真を撮影する傍ら、国内外で個展を開催。ライターとしては、2000年代前半に『DUNK SHOOT』誌で「月刊ニックス」を連載、以来同誌にてコラムを執筆している。現在日本在住。

今年の全豪オープンテニス準決勝戦終了後、大坂なおみは公式会見にロサンゼルス・レイカーズのウォーミングアップ・ジャージーを羽織って臨んだ。

２０２０年1月26日、ヘリコプター墜落事故により突如この世を去った元ＮＢＡのスーパースター、コービー・ブライアントを心の師として仰ぎ、力を借りているのだという。使用しているラケットバッグのストラップ部にも、コービーのロゴマーク〝ＫＢ〟が貼り付けてある。

大坂は18年に全米オープン、翌19年に全豪オープンを制するも、専任コーチとの契約を解除したあたりからスランプに陥る。ちょうどその頃、代理人を通して知り合った人物がコービーだった。初めて会ったのが19年6月だそうだから交流期間はわずか7か月と短かったものの、大坂の試合を観るために全米オープンの会場へ足を運んだり、テキスト（携帯のショートメッセージ）をやりとりするほどの関係にあった。墜落事故から1か月後には、2人でテニスに興じる短い動画を、大坂はツイッターにアップしている。添えられた文章は、〝彼はテニスそんなに下手じゃなかった、ハハ、愛してるよ〟

20年の全米オープン、今年の全豪オープンと立て続けに優勝を飾り、大坂はスランプから脱出し見事復活を遂げた。とりわけ精神面の安定が復活劇の大切な要因となっており、そこにはコービーから受けた励ましやアドバイス、またメンターとして、さらにはビッグブラザーとしての彼の存在が大きかったようだ。だからこそ、今でもコービーにまつわるアイテムを身に着けているのだろう。墜落事故の翌日、大坂は天国のコービーに宛てたエモーショナルな手紙をツイッターに掲載し、次のように述べている。

〝私がつらい敗北を喫した後、気にかけ、チェックしてくれてありがとう。時おり私の頭の中がどれだけ混乱するのか、あなたは知っているから、「大丈夫？」とランダムにテキストを送ってくれてありがとう。短い間にたくさんのことを教えてくれてあり

がとう。あなたと知り合えたことを幸運に思います〟
ごく短い付き合いながら、その思いやりの心で大坂のキャリア、そして人生に少なからぬ影響を及ぼしたコービー。大坂だけではない。同様の逸話は他にも数多く残っており、例えば墜落事故当日の朝にやり取りした2通のSNSメッセージは、いずれも知り合いの若者の将来を案じ、手を差し伸べる内容だった。1通は大学を転校したばかりのシャリーフ・オニール（シャックの息子）の様子を伺うもの、もう1通は友人の娘のインターン先斡旋依頼。
世界で最も有名なセレブの一人であり、多忙を極める男が、移動の合間を縫ってやらなければならない用事でもないだろう。だがコービーは些事に心を配り、手間を惜しまなかった。再び大坂の手紙より。
〝あらゆる人たちを元気づけてくれてありがとう。あなたがどれだけ多くの人の心に触れてきたか、あなたにはわからないでしょう〟。
気遣いに溢れ、交わった人々の心を掴んで離さなかった晩年のコービー。その一方で、彼は苛烈な側面も持っていた。若い頃のコービーを知る者にとって、そちらのイメージのほうが断然強いのではないだろうか。NBAで成し遂げた数々の偉業や、歴代屈指とされるバスケットボールの腕前と同様、いやそれ以上に、コービー・ブライアントという人間が持つ異常性や極端さは、完全に突き抜けていた。

午後の3時じゃない

彼の辞書に、「そこそこ」や「適当に」、「なあなあ」といった類の言葉は存在しなかった。何事も、やるからには「徹底的に」、「とことん」やらなければ気が済まない。その結果として、病的なまでの練習熱心さと呆れるほどの空気の読めなさ（KY）を発揮し、その様子は思いっきり常軌を逸していた。
エピソードをいくつか紹介させていただこう。まずは、以前他の媒体に書かせていただいた、狂気的とも言える練習への取り組み方から、興味深いもの

を2つほど短く抜粋してみたい。

●アメリカ代表の合宿に参加したトレーナーが、初対面のコービーに電話番号を渡し、ヘルプが必要だったらいつでも連絡をくれと告げた。すると翌日の早朝4時過ぎに電話が鳴り、コンディショニングワークを手伝ってほしいとのこと。急いでトレーニング施設に行くと、すでに汗びっしょりのコービーが待っていた。2時間ほどトレーニングを手伝い、コービーはコートにシュートを打ちに行き、トレーナーはホテルの部屋に戻って眠りに就いた。トレーナーは寝不足のまま集合時間の午前11時に全体練習へ行くと、コービーがコートでシュートを打っていた。「今朝はいい練習だったね」と声をかけると、「えっ?」とコービー。「朝は何時頃終えたの?」との質問に、「終えたって、何を?」と要領を得ない返事。何のことはない、コービーは早朝から4時間ぶっ続けでシュートを打っていたのだった。

●2007年夏、当時全米の高校№1選手だったOJ・メイヨが、コービー主催のバスケットボールキャンプに招待された際、コービーにワークアウトを一緒にしたいと願い出ると快諾。「明日の3時に迎えに来る」、そうコービーは言った。翌日午後3時、メイヨはコービーの迎えを待ったが、姿を現わさなかった。次にコービーに会った際、なぜ来なかったのか聞いてみたところ、返ってきた返事は「朝の3時だ。午後3時じゃない」。

コービーのKYぶりも、これまた凄まじい。彼は空気をとことん読まない。対人関係や上下関係などの常識にとらわれることなく、ただひたすら自分の信じた道を突き進んだ。それゆえ、チームメイトやコーチと衝突することも多々あったが、どれだけトラブルに遭っても、やり方を変えることはなかった。

こんなエピソードがある。99－00シーズン、レイカーズに控えビッグマンのジョン・サリーが加入した。お調子者のムードメーカーで、過去には〝バッ

ドボーイ〟・ピストンズとシカゴ・ブルズで計3回の優勝経験を持つベテランだ。この時サリー35歳、コービー21歳。

00年のプレーオフ1stラウンド、サクラメント・キングスとのシリーズは2勝2敗で最終戦を迎え、勝った方がカンファレンス準決勝に進出する。第3クォーター残り3分の時点でスコアは82対57、レイカーズ25点の大量リード。残り時間と点差を考えれば、レイカーズの勝利は揺るがなかった。

タイムアウトが取られ、中継番組がCMに入る直前、レイカーズベンチの前で選手同士が揉めている様子がテレビに映し出された。コービーとサリーだった。コービーは指でサリーの胸を何度も突きながら、ものすごい剣幕で何やらまくし立てている。CM明け、番組がそのシーンの続きを再生すると、コービーのあまりの興奮ぶりに他の選手が間に割って入り、仲裁しているほど。

リポーターの説明によると、サリーが、「試合は終わったも同然、キングスはじき諦めるだろうよ」と言ったところ、それを聞いたコービーが激昂し、「何言ってやがんだ！　手を緩めてる場合じゃねぇだろ！」と詰め寄ったのだという。

コービーの主張はド正論である。ただ、彼以外の若手ならそう思っても口に出さないだろうし、言えるはずもない。相手は経験豊富な大先輩、若造が何をか言わんやである。また、年配の陽気なベンチ要員が少々気の緩んだことを口にしたとしても、プレーしている選手に悪影響なんてほとんどないはずだ。それでも、コービーはどやしつけずにはいられなかった。周りがドン引きしようとも。それがコービーという男なのである。

もうひとつ、コービーはKYの極地とも言えるプレーをやってのけている。02年、かのマイケル・ジョーダンは02−03シーズン限りでの引退を表明し、常連だったオールスターゲームへの出場は03年が最後となった。NBAはそのオールスターゲーム

をジョーダンのさよならパーティーに仕立て、思惑通り例年以上の盛り上がりを見せた。

歴史的ショットは?

オールスターゲームにしては珍しく接戦となり、試合はオーバータイムへ。そして１３６対１３６で迎えた残り４・８秒、ジョーダンがついに本領を発揮する。ディフェンスの名手ショーン・マリオンから徹底マークを受けながらも、ベースラインから難しいフェイダウェイを放つと、ボールは美しい放物線を描きながらネットに吸い込まれたのだった。

バスケットボールの神様が、自身最後のオールスターゲームで見せた極上のウィニングショット。完璧すぎるエンディングに、世界中のＮＢＡファンが興奮し、酔いしれたはずだ。チームイーストの勝利もほぼ確定し、ＭＶＰはジョーダンが受賞するに違いない。

そんな感動の大団円に水を指したのが、誰あろうコービーだった。チームウエストのラストプレー、残り1秒でコービーは体勢を崩しながらも3ポイントシュートを強引に放ち、相手のファウルを誘う。観客から大ブーイングが巻き起こる中、コービーはフリースローを3本中2本沈め、試合は2ndオーバータイムに突入する。そして最終的に、チームウエストが勝利をさらったのである。

例えて言うなら、国民的スター選手イチローの引退試合、9回裏最終打席で一打逆転サヨナラの場面、イチローがホームラン性の大飛球を放つも、外野を守っていた若手選手がフェンスによじ登ってスーパーキャッチしてしまった、そんな感じだろうか。

この日ファン投票で先発に選ばれていたビンス・カーターは、大学の先輩であり、史上最も偉大なバスケットボール選手に先発の座を譲った。アレン・アイバーソンは、子供の頃、自分にビジョンを与えてくれたジョーダンに敬意を表そうと、ブルズのキャップと背番号23のジャージーを身に着けてア

リーナ入りし、その姿をジョーダン本人にわざわざ見せに行った。そして〝ネクスト・ジョーダン〟の筆頭だったコービーは、憧れていた存在の特別な場であっても一切手心を加えず、その結果としてジョーダンの歴史的ショットをなきものにした。

コービーは若い頃から、たとえどんな状況であれ、仲間から白い目で見られようがKYと思われようが、己の道を常に全力で走り続けてきた。たまには行き過ぎて顰蹙（ひんしゅく）を買い盛大にブーイングを浴びることもあったが、人の何倍も努力し結果を出すことで、ブーイングを大歓声に変えてきた。その一途さが人々の心を打った。コービーという稀有な人物と同じ時代に生き、彼のプレーや人生の一端を垣間見れたことは、すべてのバスケットボールファンにとって殊のほか特別な出来事だったと思う。

20年2月24日、ロサンゼルスのステイプルズ・センターで開催されたコービーの追悼セレモニーには、大坂も出席したという。総勢7人のゲストがスピーチを行い、その中の1人にコービーの代理人を20年間務め、一番の親友でもあるロブ・ペリンカがいた。彼は現在、レイカーズのバスケットボール部門副社長兼GMという重責を担っている。

ペリンカはスピーチの中で、コービーが引退後に挑戦していたスポーツはテニスだったことを明かした。2人は地元ニューポートビーチのプライベートクラブに通い、最初はペリンカの方が上手かったが、じき追い越されたそうだ。なんでも、負けず嫌いのコービーはペリンカに隠れて、クラブ専属のプロ選手から個人レッスンを受けていたらしい。「あれこそが典型的なマンバ・メンタリティー」とペリンカ。

人一倍練習熱心なコービーのこと、もし生きていれば異様なスピードで上達を見せ、今頃大坂とベースラインからバンバン打ち合っている姿が見られたかもしれない。そして、もしそんな日が訪れていたら、大坂はどんなに嬉しかっただろうか。

差別への抗議と多様性の尊重

神奈川大学人間科学部助手
波多野圭吾

拒否や抗議そして告白

２０２０年８月26日、前シーズンＭＶＰのヤニス・アデトクンボを擁する、イースタン・カンファレンスの強豪ミルウォーキー・バックスの選手たちは、オーランド・マジックとのプレイオフ第５戦のコートに姿を現さなかった。その３日前、バックスの本拠地であるウィスコンシン州内で起こった、警官による無抵抗の黒人男性への銃撃事件を受けてのボイコットだった。

さかのぼること３ヵ月。同年５月には、ミネソタ州で白人警察官が黒人男性の首を地面に押さえつけて死亡させる映像が、ＳＮＳを通じて全世界に拡散された。これをきっかけに全米で「ＢＬＡＣＫ ＬＩＶＥＳ ＭＡＴＴＥＲ（ＢＬＭ）」と称される黒人差別撤廃の運動が活発化し、ＮＢＡでプレーする選手の多くもこの動きを支持した。

ワシントン・ウィザーズに所属する八村塁はチームメイトとともにＢＬＭのデモ行進に参加し、かつてシカゴ・ブルズなどでプレーした〝バスケットボールの神様〟マイケル・ジョーダンは、自身の名を冠したナイキ社の「ジョーダン・ブランド（Jordan Brand）」と共同で、人種差別解消や社会的正義のために活動する団体に対して10年間で総額１１０億円を寄付すると発表している。

バックスのボイコットはこうしたＢＬＭの流れを受けてのものであったが、ＮＢＡでプレーする選手たちが差別に抗議したり社会活動を支援したりする

のは、決して珍しいことではない。
たとえば、NBAではチャンピオンチームがシーズン閉幕後にホワイトハウスを表敬訪問するのが慣例化しているが、2016—17シーズン、2017—18シーズンのプレイオフで優勝したゴールデンステイト・ウォリアーズのエース、ステフィン・カリーは、ドナルド・トランプ大統領（当時）の人種差別的な発言や政策に抗議し、官邸への訪問を拒否した（正確には、訪問拒否を受けて大統領側からチームに宛てた招待が撤回された）。
カリー同様に、当時チームメイトだったケビン・デュラント（現ブルックリン・ネッツ）やファイナルの対戦相手であったレブロン・ジェームズ（現ロサンゼルス・レイカーズ）も人種差別を助長する当時の政権に向けた批判コメントを発している。
2014年には、人種差別的な発言をした当時のロサンゼルス・クリッパーズのオーナー、ドナルド・スターリングに対して、リーグから罰金（約2億5600万円）と永久追放の処分が科されており、選手のみならずリーグも差別に毅然とした対応をみせている。
ちなみに、その前年となる2013年には、アメリカ4大リーグの現役選手として初めて同性愛を告白した選手に対し、リーグの最高責任者であるNBAコミッショナーから、その勇気を称えるコメントが発表された。

貧困層を支え熱狂させた

このように、アメリカのバスケットボールにはマイノリティを包摂（ほうせつ）し、あらゆる多様性を尊重する文化が存在している。それはバスケットボールという競技そのものが、教育やスポーツを通じてキリスト教を布教するYMCAで誕生したことと、深く関わっている。
バスケットボールは、YMCAを利用する白人プロテスタント信者に向けたレクリエーションとし

て考案された競技だった。しかし、野球やアメリカンフットボールのような広大なスペースや特別な用具を必要とせず、ボールとリングを設置するためのわずかなスペースがあればプレーできることもあって、早くからYMCAの外部へと広まっていった。同時期に成立したアメリカンフットボールが大学や高校などのエリート教育機関を中心に発展していったのに対し、バスケットボールは移民や都市の貧困層の間で人気を博すことになったのである。

その背景には、移民労働者や都市部の黒人など、貧困層の生活を支援する白人ソーシャルワーカー（社会福祉士）の存在があったといわれている。アメリカ国家の成り立ちをスポーツの観点から詳述した鈴木透によれば、都市の移民下層階級によるバスケットボールブームは「移民の健康増進のみならず、アメリカ社会になじませる意味をも持ち、新たな国に対する愛着を移民たちの間に広める効果も発揮した」という（※1）。

移民労働者と同じ貧しい環境にあった都市部の黒人たちも、バスケットボールに熱狂した。1920年代には、巧みなボールさばきで観客を魅了するハーレム・グローブトロッターズという黒人のエキシビションチームが結成され、プロチームを破るほどの強さをみせた。1950年のNBAドラフトで黒人として初めて指名されたチャック・クーパーや、NBAでシーズンMVPを4度、得点王を7度受賞し〝伝説〟と呼ばれる名選手、ウィルト・チェンバレンも、NBA入りする前にグローブトロッターズでプレーしている。

多様性と夢と可能性

バスケットボールは、YMCAに関係するソーシャルワーカーを介して移民や黒人の貧困層にまで深く浸透し、その社会生活の下支えとなった。それだけに留まらず、若者たちにスポーツという夢と可能性を与えることにも成功した。

また、バスケットボールは同じアメリカ発祥の競技である野球やアメリカンフットボールと異なり、早くから女性へのプレー機会が提供されてきた。

ＹＭＣＡのジェイムズ・ネイスミスがバスケットボールを考案したのは１８９１年だが、１８９３年にはスミス大学のセンダ・ベレンソン主導のもと、女子学生を対象にしたバスケットボールの試合が行われている。１９２６年からはＡＡＵ（Amateur Athletic Union）によって女性の全国大会が開始され、現在も世界中に多くの女性プレイヤーを抱えている。

キリスト教が多くの民族や人種を受け入れてきたのと同様に、バスケットボールという競技もまた、あらゆる人々を温かく迎え入れてきた。アメリカのバスケットボールが持つ多様性を尊重する文化は、こうした競技発展の歴史と密接に関わっている。

２０２０―21シーズンの開幕時現在、ＮＢＡには41ヶ国１０７名の外国籍選手が登録されている。１００名を超えるのは７年連続のことで、それに加えて８ヶ国10名の選手が２Ｗａｙ契約（ＮＢＡ下部のＧリーグに所属しながら、提携するＮＢＡチームに最大45日間帯同できる契約）を結んでいる（※２）。リーグに登録される選手の総数は４５０名であるから、およそ４人に１人が外国籍選手ということになる。

日本では八村塁や渡邊雄太（トロント・ラプターズ）の活躍が知られるが、カメルーンのジョエル・エンビード（フィラデルフィア・76ｅｒｓ）やパスカル・シアカム（トロント・ラプターズ）、スロベニアのルカ・ドンチッチ（ダラス・マーベリックス）など、チームの中核を担っている外国籍選手も少なくない。前述のバックスでプレーするヤニス・アデトクンボはギリシャ出身で、ナイジェリアにルーツを持つ選手として知られている。

マイノリティ差別の過去も

ＮＢＡには、世界中のトップ選手が最高のプレー環境を求めて集まってくるが、だからといってバスケットボールの世界に差別が全くないわけではない。

ＮＢＡの前身であるＢＡＡ時代、ニューヨーク・ニックスにワタル・ミサカという日系選手がいた。ミサカは、ＢＡＡでプレーした初の非白人選手であり、ユタ大学の中心選手としてＮＣＡＡトーナメントで優勝するなど、十分な実績を有するポイントガードであった。

しかし、シーズンが開幕してわずか13日後の１９４７年11月25日。ミサカはチームから解雇を告げられる。出場したのはたった3試合。輝かしい功績を残したユタ大学時代のプレーからは予測もつかない結末であった。

ミサカの解雇に至った直接的な理由は公にされておらず、一般には１７０㎝という身長の低さが決め手になったといわれている。だが、ホーム、アウェーを問わず、観客からミサカへの人種差別的なヤジが絶えなかったことから、その光景に胸を痛めた当時のチーム責任者が、人種に関するトラブルを回避するために解雇を決断したとの見方もある（※3）。

１９４０年代といえば、アメリカ南部を中心に法律によって人種隔離が認められていた時代である。野球を通じて人種の壁を打ち破ったジャッキー・ロビンソンのＭＬＢデビューが１９４７年であることをふまえて考えれば、当時の社会から有色人種であるミサカに向けられるまなざしがいかに冷酷であったかは、想像に難くない。

社会的正義と発信の意義

ＮＢＡ初の台湾系選手で現在はGリーグでプレーするジェレミー・リン（サンタクルーズ・ウォリアーズ）は、自身のＦａｃｅｂｏｏｋにて、アジア系ア

メリカ人に対する偏見や差別について言及している（※4）。リンの投稿は、ミサカの解雇から半世紀以上が経つ現在も、アメリカ社会にマイノリティに対する差別的な扱いが存在していることを示唆している。しかし、身体的パフォーマンスの差異が強調されるスポーツの世界では、マイノリティの選手たちによる活躍が、彼ら彼女らを排除することの不当性をあらわにし、社会から差別を排するきっかけになってきた。

だからこそ、ＮＢＡでプレーする選手たちは差別に強く抗議し、多様性を尊重する姿勢を崩さない。政治や社会的正義に関するメッセージを発信することを自らに課された使命と理解し、社会貢献活動へも積極的に参加する。これから訪れるグローバル社会において、ＮＢＡ選手たちの存在意義はますます大きくなっていくだろう。

※1 鈴木透『スポーツ国家アメリカ　民主主義と巨大ビジネスのはざまで』loc.1056　中公新書　２０１８年(ebook-kindle)

※2 NBA JAPAN「41か国から107人の米国外出身選手が2020-21シーズンの開幕ロスター入り」２０２０年12月23日　https://www.sportingnews.com/jp/nba/news/2020-21-nba-rosters-international-players/1xmg23wbubaje1xzpuvub12pf1（２０２１年４月26日最終閲覧）

※3 大井成義「わずか3試合の解雇に人種差別はなかったか？【ワタル・〝ワット〟・ミサカ―ＮＢＡで初めて人種の壁を破った男／後編】」２０１９年11月26日　https://thedigestweb.com/basketball/detail_2/id=6093（２０２１年４月26日閲覧）

※4 NBA JAPAN「ジェレミー・リンがアジア系アメリカ人への人種差別に言及『僕たちはうんざりしている』」２０２１年２月27日　https://www.sportingnews.com/jp/nba/news/jeremy-lin-asian-americans-tired-of-being-told-they-dont-experience-racism/1ut92skeld0x41rjav94xj3ga3（２０２１年４月26日最終閲覧）

夢劇場『馬』

No.24

白馬のスリル

長田渚左

　桜花賞を制した白毛のソダシは美しかった。

　美しいだけではなく、堂々として強い。ゴールへの直線は神々しささえ感じられ、騒々しいテレビ実況の音声が消えてしまうような感覚で見とれてしまった。

「本当に白い馬が勝つだろうか？」

「神事には合うが、本能を剥きだしにしなくてはならないレースには向かない」

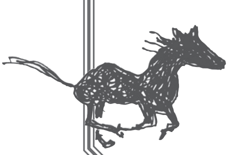
　白い馬はどこかひ弱……国内だけではなく、世界中でそのように思われているとしたら、白い馬たちがもししゃべれたなら「差別だ」「偏見だ」と抗議するかもしれない。

　ちなみにサラブレッドの毛色は全部で８種類で、白毛が日本で初めて生まれたのが１９７９年。去年までに誕生した約33万２０００頭のサラブレッドのうち、白毛はわずか40頭だったそうだ。その確率は０・０００１２。何という希少価値!?

　今年の桜花賞、白毛馬がクラシックレースに出走すること自体が初めてだと言われたが、彼女は見事なレコード勝ちで５戦５勝。つまり私たちは競馬史に残る歴史的レースを目撃したことになる。

　人間界ではプロゴルファー松山英樹のマスターズ初優勝が、日本人の初挑戦から85年かかったと大騒ぎになったが、白馬界でもソダシの偉業は同じくらい「アッパレ！」と讃えられていい。しかも彼女の勝ち方は大差といった大味なものではなく、タイム差のない首差。手に汗握る展開でスリル満点。「まるでシンザンのように勝った」という声も聞こえてきそうだ。そういえば松山も最後は１打差での優勝だった。

　勝負は最後の最後まで分からない。もしかするとソダシは〝ちょこっと勝ちの妙〟、つまり〝勝ちきるスリル〟を知っているのかもしれない。



バックナンバーのご案内

バックナンバーを、直接お申し込みいただけます。ご希望の号と冊数を明記し、送料分の切手を左記にお送りください。

〒352―0011
埼玉県新座市野火止8―16―32
株式会社東美物流
『スポーツゴジラ』係

送料値上がりのため45号より変更しました。

10冊まで　送料　４００円
20冊まで　送料　７００円
40冊まで　送料１２００円

※特集の内容は本誌巻末カラーページとホームページに記載しています。

【ホームページ】
http://sportsnetworkjapan.com/

★お申し込みいただくとき『スポーツゴジラ』への感想もお書き添えいただけると幸いです。

次の秋号第52号は２０２１年９月中旬刊行を予定しています。ご期待ください。

また、バックナンバーは品切表示の号も左記の図書館でお読みになれます。ご利用ください。

●世田谷区八幡山・大宅壮一文庫
●世田谷区深沢・日体大世田谷キャンパス図書館
●港区広尾・東京都立中央図書館
●千代田区永田町・国立国会図書館
●港区芝・東京都人権プラザ図書館

【理事】
五十嵐二葉（弁護士）／池井優（慶應義塾大学名誉教授）／伊藤順蔵（早稲田大学名誉教授）／長田渚左／岡田匡令（淑徳大学名誉教授）／笠原一也（日本オリンピック・アカデミー名誉会長）／佐久間昇二（ぴあ株式会社取締役）／重村一（㈱ニッポン放送取締役相談役）／永井憲一（法政大学名誉教授）／山口香（筑波大学教授）／山口良治（京都工学院高校ラグビー部総監督）

【事務局】
〒３５９―１１９２
埼玉県所沢市三ケ島２―５７９―15
早稲田大学スポーツ科学部 太田章研究室気付

皆様、ご存じでしたか？

『スポーツゴジラ』が置かれている都営地下鉄（大江戸線、浅草線、三田線、新宿線）では、ラジオのＡＭ放送を聴くことが可能です。緊急時の情報収集などに役立ちます。

スポーツゴジラ®
２０２１年5月24日発行
第1巻第51号

無断転載・転売を禁じます

企画編集　スポーツネットワークジャパン
長田渚左・川本凛太郎・阿部雄輔
波多野圭吾・西本祥子・江川卓美
平塚貴大・山内亮治・鈴木希人
制作　有限会社ナトリック
印刷・製本　株式会社 美松堂
発行　スポーツネットワークジャパン

お問い合わせは左記まで
特定非営利活動法人
スポーツネットワークジャパン
〒168―0063
杉並区和泉1―40―13―401